

あきた PTA あきた

大会特集号

平成23年度
社団法人 日本PTA全国協議会

第43回東北ブロック研究大会

秋田大会

平成23年9月18日(日)秋田市文化会館で開催された大会は、1500人を超える参加者を得て、「東北はひとつ」「秋田から元気発信」の気持ちを込めた特別プログラムと山王中学校吹奏楽部による演奏で会場を盛り上げ、「上を向いて歩こう」「ふるさと」の大合唱がフィナーレを飾り、感動に包まれて特別な年の特別な大会が終了しました。

以下、全国大会と併せて報告いたします。



がんばろう 東北PTA
美の国 詩の国 秋田で語ろう PTAを

～子どもたちのためにいまできること これからのこと～



愛ある子育て、夢ある子育て

【発行】秋田県PTA連合会 【事務局】秋田市山王中島町1番1号秋田県生涯学習センター内

TEL (018) 864-8975 FAX (018) 824-7935 E-mail:pta-akita@helen.ocn.ne.jp <http://www.pta-akita.com>



大会あいさつ・祝辞から

(社)日本PTA全国協議会

会長 相川 敬



この度の震災は大変悲しく辛い事でしたが、全国からの復興支援をきっかけに、温かい人とのつながり、絆の大切さを感じることができたのではないのでしょうか。

この震災での学びをしっかりと受け止めて、子どもたちの笑顔の絶えることのない教育環境を創り上げていくことが必要です。

日本PTAでは被災地の県P連、市P連と連携し、会員皆様の支えとなり歓喜溢れる学校・地域社会を再構築するために、息の長い支援をしていきたいと考えております。

秋田県知事

佐竹 敬久



本県では、被災地への様々な思いを大切にしつつも、過度な自粛を止め、県民一人ひとりが通常の生活を取り戻し、経済の正常化を図り東北の復興

へ貢献するため、「ニッポンの笑顔、秋田から!」をスローガンとした「東北の元気回復プロジェクト」を推進しています。

将来を担う子どもたちには、チャレンジ精神を持ち、夢に向かって生き生きと成長し、地域や社会から期待される人材として羽ばたいて貰いたいものです。そのためには家庭や地域での環境づくりが必要であり、PTAの存在意義もますます大きくなることと思います。

秋田県教育委員会

教育長 米田 進



東日本大震災から半年を経過した今、改めて東北という「ふるさと」に思いを巡らせております。戦後史の中で、東北地方は首都圏へ人材や資源を供給し、日本の経済発展を支えると同時に、何かしらのノスタルジーを感じる地域、「心のふるさと」としての地位を占めてきたのではないかと思います。

本県では、子どもたちが郷土の自然や人間、社会、文化、産

業等と触れ合う機会を充実させ、そこで得た感動体験を重視

すること、ふるさとの良さを発見や愛着心の醸成、ふるさとの生きる意欲の喚起を目指した「ふるさと教育」の取り組みを進めてきました。

「学び」は子どもだけのものではありません。学びの営みは生涯にわたるもので、PTAの活動もそのひとつであると言えます。PTAは、年齢、性別、職業を越え、子どもの幸せと健全な育成という共通の目的を持った仲間と出会う場です。その仲間たちと語り、学びを深める、まさに「生涯学習」のステージです。

秋田市長

穂積 志



秋田市では、人間関係を築く力の育成をはじめ、子ども一人ひとりのニーズに応じた教育の重要性の高まりに対して、創造性豊かにたくましく生き抜く「自立」の力と、互いを思い、認め合う「共生」の心を育み、徳・知・体のバランスの

とれた子どもの育成に取り組んでおります。

震災が起きた年だからこそ、次代を担うかけがえのない子どもたちを心豊かにたくましく育てるために、PTAの皆様は地域の方々と英知を出し合うことが必要だと思えます。

秋田市教育委員会

教育長 芳賀 龍平



人々のライフスタイルや家族の在り方が多様化する中で、家庭の教育力の低下が懸念され、すべての教育の出発点となる家庭教育の支援体制づくりが求められております。

次世代を担う子どもたちが夢や希望に向かってたくましく成長し、心身共にたくましく成長することができると環境を創ることは、活力ある社会を目指す上で極めて重要なことであります。そのためには、学校・家庭・地域の連携が必要であり、その中核的な役割を担っていただくことをPTA活動に携わる皆様から期待しているところです。

大会宣言

私たちはこの大会を前にして、未曾有の東日本大震災に見舞われました。東北から関東北部の太平洋沿岸各県の惨状を目の当たりにし、引き続き福島第1原発事故による被災は本大会の開催を躊躇させるものでした。

大震災から2ヶ月後、私たちは力強い意志の基に「東北はひとつ がんばろう東北PTA」を掲げて、大会開催を決定いたしました。

私たちは、いま、ここに集う東北PTA会員1,500余名の、子どもたちを思う熱い気持ちと会員相互を結ぶ強い絆によって、「第43回東北ブロック研究大会秋田大会」が開催された喜びで満たされております。

例年の大会とは異なり、分科会もなく討議の場もない大会ですが、「子どもたちのために いまできること これからのことを一緒に考え、秋田から元気を発信する大会」にいたします。

私たちは、この大会を機に、今一度子どもたちの未来に向けた家庭の在り方、教育の在り方、地域社会の在り方について、PTAが何をすべきか、何ができるのかを模索し、実践していくことを宣言し、次のことを決議いたします。

決議

- 一、子どもの生活リズム向上のため、食育と基本的な習慣を確立するPTA活動を推進します。
- 一、子どもたちを有害情報から守り、子ども自身や他人の生命、人権を大切にするPTA活動を推進します。
- 一、地域との連携を重視し、子どもの安全・安心確保に努めるPTA活動を推進します。
- 一、学校への協力を惜しまず、子どもたちを取り巻く課題解決に共に取り組むPTA活動を推進します。
- 一、東日本大震災及び福島第1原発事故により被災された多くの子どもたち、PTA会員、学校、PTAを支援し、「東北はひとつ」の絆で結ばれるPTA活動を推進します。

大会を終えて

東北PTA連絡協議会

秋田県PTA連合会

会長 加藤 寿一

東日本大震災、福島第一原発事故を乗り越えて実施した東北ブロック研究大会秋田大会は皆様のご協力、ご支援によって「秋田から元気発信」の目標を達成して終了することができました。一日だけの開催にはなりましたが、本県PTAの底力を示すことは出来たのではないのでしょうか。深く感謝申し上げます。

大会を終えた今、皆様と共に改めて「子どもたちのために いまできること これからのこと」を考え、あの持てる力を結集して新しい行動に移していきたいと思っております。今後とも本県PTAの活動に積極的な参加をお願いいたします。ひとつの終わりは新しい始まりです。

お知らせ

「子どものえき」と「避難者交流センター」の設置

県PTA連合会事務局が入居している秋田県生涯学習センターに標記施設が設置されました。

「子どものえき」には、おむつ交換台、ベビーキープ、授乳場所の設備が設置されておりますので、幼児との来館の際にご利用ください。「避難者交流センター」は、大震災・原発事故で福島県から非難されている方々の交流の場として、また、福島県の新聞（福島民報・福島民友）を常備するなど情報の提供もしておりますので、ご利用ください。



大会スナップ



特別プログラム 鼎談 抜粋



皆川

お二人から、圧巻のパフォーマンスを見ていただきましたが、佐藤佳奈さんから、このパフォーマンスについての思いを紹介して貰いたいのですが。

佐藤

東北六県から参加いただくと言うことで、東北の一員としてのプライドというか、誇りを「動く」という字に託しました。きれいに書くというよりは、本当の気持ちを込めた文字です。

皆川

真ん中に赤で「東北」とかきましたね。この思いはどうでしょうか。東北は本気というところを見せたいなど思っています。「東北」の文字を書いた後に「動く」という文字をデザインしました。

皆川

東北が動いていくぞ、

佐藤

一丸となって動いていくぞという丸なんです。そうですね。そういう気持ちで込めて丸にしました。

皆川

舞台の袖で見ているのですが、あまりの迫力に全く微動だに出来なかつたです。最終的にこの字にしようと思った思いはどこにあったのでしょうか。

佐藤

震災があつて、このお話を戴いたときにきれいに書くよりも「東北のプライド」を表現したいと思いました。前向きに気持ちが出ればそれが行動に出て、行動に出ると周りの人も動き始めて、それが大きな力になって東北を世界に発信する原点になると感じたので、あの「動く」を表現しました。

皆川

世界に東北のパワーを発信ですね。会場の皆さんも東北が一つになるイメージを持たれたのではないかと思います。息をのんでいるうちに、ブラボー中谷先生のパフォーマンスになりましたが、会場が一つになっていくよ

三手

うなマジックでした。仕事の時のPTAはどうしていましたか。PTAで朝五時から草刈りという、それまでに帰って来るわけです。青森とか福島へ行っても泊まらずに帰ってきて、寝ないで草刈りをしていました。子どもが小さい頃は祖父母に預けて仕事に行つて、子どもが寝ているうちに帰ってきました。

皆川

子どもとのコミュニケーションは絶対に欠かさなかつたんですね。それでも、他の家と比べれば足りなかつたと思います。負目にならないように、出来るだけのことはしたつもりですが。

三手

忙しい中でもPTAの活動を欠かさずやってきたブラボーさんですが、佐藤さんは、親が自分のためにいるんな事をやってくれるというのはどう思いますか。親が働いていたので、休んで来てくれることはうれしかったです。自分が働くようになって、そのための時間を

佐藤

作る労力を実感して
います。ありがたいな
と思います。

皆川

自分がその世代にな
った時に、そうして繋い
でいくのでしょうか。

佐藤

そうですね。そうし
たいです。

皆川

ブラボーさんは、世
界のラスベガスでも秋
田弁ですね。

三平

最初はがんばって英
語を覚えましたよ。で
も、カタカナ英語は全
然通じませんでした。
英語がだめなら秋田弁
でとやったら良かった
ですね。言葉ではない
んです。楽しませたい
という気持ちは、汗と
ともににじみ出てくる
と思うんですよ。

皆川

人に何かを伝えてい
く時の思いは、言葉だ
けではないと思いまし
た。佐藤さんは「東北
動け、始動だ」とブラ
ボーさんは「親が笑っ
ていなければ子どもは
笑えない」とそれぞれ
のパフォーマンスをし
ていただきました。

私は子どもたちの体
験活動施設にもおりま
したが、昭和五十八年
の日本海中部地震で津
波の被害があった所
です。海を使った様々
な体験をするのですが、

「ここは大きな津波のた
めに、たくさんの方が
亡くなった場所です。
このことを忘れず、海
に感謝して挨拶してか
ら海に入ろう」と教え
てきました。時間とと
もに忘れられていく事
があります。伝えて
いくことも大切だと思
います。最後に一言あ
りますか。

三平

この大会をきっかけ
に家族を連れて秋田に
来てください。秋田県
は被害は少なかったの
ですが、秋田に来た
皆さんが元気になって
帰って、がんばっても
らいたいと思います。

佐藤

東北の一員として、
本気な姿勢で日々取り
組んでいきたいと思っ
ています。

皆川

ありがとうございます
でした。皆さんともに
元気ががんばることを
誓って終わりたいと思
います。



実行委員長のことば

大会実行委員長 渡辺正宏

三月十一日 午後二時
四十六分。この時間を境に、
私たちの生活は大きく変わっ
てしまいました。私たちの住
む市や町を、津波を伴う大地
震が襲いました。



各地での大きな被害が伝え
られる中、私たちは今回の大
会の開催をどうすべきか大い
に悩みました。被害に遭われ
た仲間たちのことを思うと、
中止した方がいいのではとい
う意見もありました。そんな
時、被災された県の会長たち
から、「大会はやろうよ。大
変だけど、俺たちの元気な姿
を見て欲しいんだ。」そんな
声に後押しされ、本大会を実
行することが出来ました。
子どもたちへの思いを残し
ていった方々。大切な家族を
失ってしまった方々。生まれ

育った故郷から離れて暮ら
している方々。
こうした多くの仲間たちの
ことを思うと胸がいっぱいに
なってしまう。これから
のことを考えると、気持ち
萎えてしまうこともあるで
しょう。

しかし、私たちは明日に向
かって歩いていかなければな
りません。未来を信じて進ん
でいかなければなりません。
自分たちのためにも、仲間た
ちのためにも、そして何より
も子どもたちのために。
がんばろう東北！がんばろ
う東北PTA！

仙台市PTA協議会長のことば

仙台市PTA協議会会長 内田幸雄

仙台市立荒浜小学校一年生
だった「かのんちゃん」とい
う子どもがいます。今は、陸
前高田の小学校二年生です。
お父さんとお母さんが亡くな
り、お姉ちゃんも亡くなりま
した。

でも、その子はおじいちゃ
ん、おばあちゃんの前で一粒
の涙も流すことはなく、素敵
な笑顔で毎日暮らしていると
いうことです。お寺の本堂の
中でただ一人、お姉ちゃん
のお骨にさわりながら、大粒の
涙を流していたという記事も
ありました。

趣味は乗馬だそうです。津
波に襲われた荒浜小学校のす
ぐ近くには乗馬クラブがあり
ました。ふるさと荒浜の子ど
もらしい趣味だと先生がおっ
しゃっていました。

多くの子どもたちが本当に
心も傷ついたことでしょう。
住み慣れたところを追われ、
かのんちゃんのようにおじい
ちゃん、おばあちゃん、ある
いはもつと違ったところ
に行っている子どもたちも沢
山いるのではないのかなと思
います。

特に、福島の子どもたちは
全国に散っています。いつの
日か「あんな時代もあった」
と振り返ることができ、そし
て全国、世界中の人たちの支
援に対して「ありがとう」と
言える日が必ず来ることを信
じて前に一歩ずつ進んでいき
たいと思います。



第59回

日本PTA全国研究大会

ひろしま大会

「みんながって、みんないい」
乙武 洋匡 氏

〔記念講演〕
「みんながって、みんないい」
乙武 洋匡 氏

「みんないい！みんないい！や
りんさい！子どもたちの笑顔
のために がんばろう日本！
平和な未来へひろしまから
の発信」をスローガンに、
八月二十六日（金）二十七日
（土）の両日、標記大会が広
島県内各地会場に開催されま
した。全国から八三〇〇人の
参加で、復興の地ひろしまに
集い学び合い考え行動するこ
とが震災復興支援につながる
と、会員が心を一つにした意
義ある大会となりました。

会長あいさつ

相川会長は冒頭、広島は戦後の
荒廃からめざましい発展を遂げ、
苦難の道を歩みながら常に世界平
和を求め訴え続けており、広島
の人々は心豊かな感性とたくましく
生き抜く力を持った『郷土愛』溢
れる方々と語り、これからも全国
会員が子どもたちの笑顔が絶える
ことのない教育環境を支えてい
き、本大会のスローガンはこの度
の被災地を思う願いであり、更なる
支援をひろしま大会から発信し
ていこうと力強く結びました。

「五体不満足」を出版してから
十三年、二児の父となった氏の講
演の一部を紹介します。

昨年三月まで杉並区の小学校
で三年間教師をしていました。学
校は「杞憂な世界」でした。物事
をやる前に心配し、それなら止め
ようと子どもたちから貴重な体験
を奪ってしまう。苦情やパッシン
グを意識しすぎて臆病になってい
ました。手段は違っても子どもへ
の思いは保護者も教師も同じなの
で「子どもを良くするという目的
を共有する」ことが大切です。そ
のためには学校と家庭の信頼関係
が必要です。氏はそのため、家
庭への電話を欠かしませんでした。
子どもを褒め、がんばったこ
とを伝えて保護者との良好な関係
を築きました。

教師として「居心地の良いクラ
ス」を目指し、三つの事を掲げま
した。

- 一. 子どもの1番の良さを見つけ
てあげる。
- 二. その良さを褒めて、自信を持
たせること。
- 三. 他の子どもの良さを伝えること。

大震災が発生し、何も出来ない
自分を弱者だと思い、無力感にと
らわれました。一ヶ月後によくや
くその無力感と向き合い、出来な
いことも自分らしさであり、出来
ることをすればいいと考えられる
ようになりました。お互い足りな
いところを助け合って、支え合っ
て社会を創ることが大切です。

被災地から被災地へ

全体会の会場には仙台市の小中
学生や教職員が感謝の気持ちを入
めた七夕飾りが吊され、ロビーに
は被災地PTAからのお礼と報告
のパネル、広島からの応援パネル
等が展示されました。このパネ
ルは本県での東北大会でも展示さ
れ、その後東北各地、全国を回っ
ています。



平成二十三年 表彰一覧

〔文部科学大臣表彰〕

- ・にかほ市立金浦小学校PTA
- ・湯沢市立横堀小学校PTA

〔日本PTA全国協議会会長表彰〕

- 団体
- ・小坂町立小坂小学校PTA
- ・横手市立十文字中学校PTA

個人

- ・工藤 晃 (県P連副会長)
- ・成沢 裕之 (県P連副会長)
- ・齋藤 伸二 (県P連副会長)
- ・後藤 孝 (東北P母親委員長)

〔東北PTA連絡協議会会長表彰〕

- 団体
- ・小坂町立七滝小学校PTA
- ・北秋田市立鷹巣中央小学校PTA
- ・潟上市立豊川小学校PTA
- ・秋田市立川添小学校PTA
- ・秋田市立勝平中学校PTA
- ・男鹿市立北陽小学校PTA
- ・にかほ市立象潟中学校PTA
- ・美郷町立千屋小学校PTA
- 個人
- ・佐藤 範和 (大館・北秋田PTA連合会前会長)
- ・宮腰 篤 (能代市山本郡PTA連合会前会長)
- ・鎌田 悟 (東北ブロック研究大会秋田大会全体会実行委員長)
- ・田子 多津子 (東北ブロック研究大会秋田大会全体会副実行委員長)
- ・真坂 美幸 (由利本荘市立島海中学校PTA会長)
- ・千葉 朋穂 (せんぼくPTA連合会元会長)
- ・堀川 清澄 (仙北市PTA連合会前会長)
- ・柴田 幸雄 (横手市PTA連合会前会長)
- ・中川 英明 (秋田県PTA連合会前監事)

〔秋田県PTA連合会会長表彰〕

- 団体
- ・鹿角市立平元小学校PTA
- ・大館市立長木小学校PTA
- ・男鹿市立男鹿北中学校PTA

ひろしま大会分科会

◆**第一分科会 (組織運営)**
「語り合い、手を携え、より良い実践を見つけよう」

◆**第二分科会 (家庭教育)**
「かかわろうや たのしもうや 子どもたちと！」

基調講演はプロレスラーで、青少年育成活動実践者の藤波辰爾氏でした。

「藤波流子育て」と題して、成長していく二児との関わり方、子どもの夢や希望を後押しする夫婦の在り方等、途中からは会場の奥様を壇上に招いての子育ての実際を話されました。

パネルディスカッションでは「自分で考える」「自分で行う」という自立心を醸成する家庭教育が必要との結論で、大いにもりあがりました。

◆**第三分科会 (学校教育)**
「子どもたちにたくましく生きる力を育む社会の実現をめざして」

◆**第四分科会 (広報活動)**
「効果的な広報活動の確立のために」

◆**第五分科会 (地域連携)**
「ふるさと再発見で地域活性」

基調講演は、地元出身の映画監督大林宣彦氏が「魅力ある地域・誇りあるふるさと」これからの地域の大人に求められるもの」と題して、次代への宝物として伝えていくべき地域の魅力、地域の大人の活動について、尾道や各地のロケの経験を通して興味深く語りました。

◆**第六分科会 (人権教育)**
「いのち輝け！」

基調講演は、学校でのいじめから人生をあきらめかけ、二十三歳で新たな目標をつかんで、母校の教師となった宮本延春氏が講師で、自身の様々な出会いや経験をもとに、今子どもたちにどのような働きかけが必要なのか熱く語られました。さらに、夢や志を持つに至った人との出会い、人から貰う元気なあきらめない力、挑戦する勇氣などパネリストを加えて続けました。

◆**第七分科会 (平和教育)**
「子どもたちと創っていく明日」

◆**第八分科会 (健康安全)**
「食は心なり」

◆**特別第一分科会**
「有害情報から子どもたちを守るために」

◆**特別第二分科会**
「生きる力 親が育て 学校が磨き 地域が鍛える」

「命の光を大きく輝かせるため」と題し、元夜間中学校教師の松崎運之助氏による講演で、自身の経験を踏まえ、生きるためには感動が必要とし、映画「学校」のエピソード等聞く人々の生き方を問う内容でした。

子どもの自立に向けては、大人のレベルを押しつけないこと、コミュニケーション力、知らないこと、答えのない問いに挑戦する力を養うことの必要が話し合われてパネルディスカッションが盛り上がった。

がんばる日本・がんばるPTA 原田真二(復興支援)コンサート

広島県出身の原田真二氏による復興支援コンサートは、真二コールとともにヒット曲を歌い、楽しいトークで会場を沸かしました。「大変なときこそ一人一人が今できること、やさしさのアクションを起こしましょう！」との呼びかけに参加者も大きな拍手でこたえ、「アメイジンググレイス」の熱唱で閉じられました。

ファイナルでは相川会長から被災地協議会に義援金が贈呈され、加藤会長が東北の代表として全国の皆様にお礼と継続的な支援をお願いいたしました。

最後は、広島の子どもたちと参加会員、大会スタッフなど八〇〇〇人のコーラスで「Believe」を歌い上げ、がんばろうPTAの気持ちの一つになって感動的な終演となりました。



「Believe」8000人のコーラス

・にかほ市立院内小学校PTA
・横手市立増田中学校PTA
・湯沢市立福川中学校PTA

個人

- ・黒沢 隆 実(鹿角市立花輪小学校PTA前会長)
- ・岩谷 憲 昭(大館・北秋田PTA連合会前副会長)
- ・木村 浩 悦(大館・北秋田PTA連合会前副会長)
- ・宮腰 篤(能代市山本郡PTA連合会前会長)
- ・椎名 志 保(潟上市・南秋田郡PTA連合会前副会長)
- ・鈴木 康 二(潟上市・南秋田郡PTA連合会前副会長)
- ・三浦 良 忠(男鹿市PTA連合会前副会長)
- ・伊藤 仁(秋田市PTA連合会前副会長・事務局長)
- ・鎌田 悟(秋田市PTA連合会前副会長)
- ・飯塚 喜 弘(秋田市PTA連合会前副会長)
- ・渡子 多津子(秋田市PTA連合会前副会長)
- ・渡邊 一 幸(秋田市PTA連合会前副会長)
- ・田村 浩 喜(秋田市PTA連合会前副会長)
- ・佐々木 利 嗣(由利本荘市PTA連合会前副会長)
- ・佐藤 幸 毅(にかほ市PTA連合会前副会長)
- ・千葉 朋 穂(せんぼくPTA連合会元会長)
- ・菅原 由 比(せんぼくPTA連合会前母親委員長)
- ・佐々木 健(横手市立田根森小学校PTA前会長)
- ・近野 清 之(湯沢雄勝PTA連合会前理事)

【秋田県PTA連合会広報紙コンクール表彰入選】

小学校の部

- ・秋田市立旭川小学校PTA「あくあ」
- ・秋田市立勝平小学校PTA「かつひら通信」
- ・由利本荘市立尾崎小学校PTA「おざき」
- ・秋田市立外旭川小学校PTA「そとあさひかわ」
- ・秋田市立飯島小学校PTA「いじま」
- ・秋田大学教育学部附属小学校PTA「こむらさき」
- ・八峰町立瑞川小学校PTA「かけはし」年一回発行
- ・中学校の部
- ・能代市立東雲中学校PTA「すくらむ」
- ・秋田市立山王中学校PTA「PTA山王」
- ・秋田市立勝平中学校PTA「松籟」
- ・秋田市立桜中学校PTA「桜」
- ・男鹿市立潟西中学校PTA「かたにし」年一回発行
- ・由利本荘市立由利中学校PTA「PTA会報」年一回発行

※年一回発行を除く小中学校は全国コンクールに推薦しました。

仙台市復興応援PTAフェスティバル

視察を終えて

秋田県PTA連合会 委員 加藤克衛
 十一月六日に行われた仙台市PTAフェスティバルを視察させていただきました。八回目となる今年度は「復興支援」という形での開催でした。会場では、各学校のPTAの方々がテントで色々な催しをしており、その数も五十にもなるうかという程でした。PTA会員だけでなく、野球・サッカー・バレー・バスケット等のユニフォームを着た子どもたちも一緒に頑張っている姿がとても印象的でした。毎年盛況ですが、今年は特に震災からの復興という言葉で格段に盛り上がりつつあるという事でした。

強く感じたことは、「誰かがやってくれるだろう」ではなく、「自分が、自分たちがやらなければ」という気持ち、意気込みでした。私たちも、少しでも、小さい事でもいいから、自分で、自分たちでという意識で子どもたちのために活動していきたいと思えます。

視察研修に参加して

秋田県PTA連合会 幹事 高安秀人

会場は「勾当台公園」と隣接する「市役所前市民広場」で十一月六日(日)午前十時から午後三時三十分までの開催で、当日は朝からポツリと今にも雨が落ちてきそうな曇りの空となりました。

会場は高砂中学校による「高砂復興太鼓」の開催に始まり、合わせて二十三ものイベントが盛り沢山で進行され中でもプラスバンド、和太鼓など迫力満点のステージとなった。他に八十張り及びテントで各種(学び・遊び・飲食・PTA活動など)コーナーも盛大に催され協力をアイディアを出しながら進んでいる様子は開催テーマとなる「今だからこそ・声かけよう!」

手をつなごう! 支えあおう! 広げよう復興応援の輪! 和! わ! そのものでありました。

閉会後ももなく雨音がしてきてたが帰りの車中は震災地の完全復興と子供たちの明るい未来・家庭を祈り満点の星空を眼下に浮かべて家路へと向かった。



安全互助会からのお願い

忘れていませんか!

けがが治ったら保険金請求の手続きをお願いします。



県P連からのお願い

「書き損じはがき」

抛出運動への参加を

本年度も年賀はがきの時節を中心に「一人一枚以上の抛出運動」を実施いたします。

諸活動を通して、子どもたちへの還元を考えておりますので皆様のご協力をお願いいたします。

編集後記

今年ほど、涙を流した年も無いように思います。三月十一日から日々、「東北大会」開催の可否に悩んだが、それでもやるという声に押されて「がんばろう東北PTA」「秋田から元気発信」を掲げた大会を実行した。大会を決意するまでの涙、準備しながらの涙、ファイナルでの涙、大きな感動を残して終わった大会を思い出し、涙している昨日、今日である。

新しい年が子どもたち、会員皆様にとって良い年でありませうと祈念します。(N)

旅の情報・ご予約・ショッピング

えきねっと

会員登録 無料 会員募集中! www.eki-net.com

JR東日本のインターネットサービス「えきねっと」は新幹線・特急のきっぷの申し込みがカンタン便利! 登録も無料! 会員だけの割引サービスも!

「えきねっと」なら携帯電話からも会員登録OK!

「えきねっと」ならパソコンや携帯電話できっぷの申し込みができてとっても便利。

「えきねっと」なら「トクな値」などおトクなきっぷの申し込みができます。

*列車・区間・座席数に制限があります。くわしくはホームページをご覧ください。

えきねっと www.eki-net.com

くわしくはホームページでご確認ください

パソコンや携帯電話でおトクなきっぷを申し込み



日新火災



お客さまひとりひとりと、顔のみえるおつきあい。

日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔のみえるおつきあい」で、お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して

秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社

日新火災海上保険株式会社

秋田支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2 TEL.018-837-5255